

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地理総合	2	1年1類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 新地理総合(帝国書院) 詳解現代地図 最新版(二宮書店)		高等学校 新地理総合ノート

科目の到達目標 ・様々な地図や統計から情報を読み取ることができる。 ・世界の生活文化の多様性や地域的・地球的課題について理解を深める。 (知識及び技能)	
・地理に関わる事象の意味や意義、特色、相互の関連を多面的・多角的に考察することができる。 ・国家や地域の歴史的、空間的つながりを考慮しながら、地域的・地球的課題の解決に向けて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。 (思考力、判断力、表現力等)	
・世界の多様な生活文化を尊重する態度、よりよい社会の実現をめざして主体的に課題の解決に取り組む態度を身につける。 (学びに向かう力、人間性等)	

評価の観点と方法について 年3回の定期考査の点数を基準とし、ノートやワークシート、課題の内容、提出状況、自己評価の内容をもとに総合的に評価する。 ※中間考査は実施しません。	
---	--

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	中学時の復習	これからの地理学習の基盤を確認する	・基本的な世界の地形、国名について復習をする	様々な地図の役割を説明できる 統計地図から必要な情報を読み取ることができる
	5	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	様々な地図の役割を理解し、適切な情報を読み取る技能を身につける	・地球上の位置と時差、地図の役割と種類について、図をみながら理解する ・統計地図や GIS については情報端末を活用する ・ハザードマップを通して防災について考える	
	6	第2章 結び付きを深める 現代世界	国家の役割、国家間の様々な結びつきを理解し、グローバル化する現代世界への認識を深める	・国家と領域について、基礎的な知識を得る ・様々な分野で結びつく世界を地図や統計から読み取る	国家間の結び付きの特徴を位置や分布に注目して説明することができる
	7				

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と 国際理解	・言語や宗教について、基礎的な知識を身につけるのみならず、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する また、多様な文化を尊重する態度を身につける	・世界の様々な言語・宗教について理解を深めるとともに、言語・宗教と人々の生活との関りについて考察する	言語・宗教について、その特徴や分布に着目して説明することができる 言語・宗教と生活文化との関りについて説明することができる
	10		・現在の多様な生活文化が、歴史的背景も成因となっていることを理解する ・自然環境と産業、産業の発達と人々の生活文化についてそのつながりを理解する	・言語・宗教と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する ・歴史的背景と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する ・世界の産業と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	現在の生活文化がどのような歴史的背景により形作られたか説明できる 自然環境と産業、産業の発達と生活文化との関りについて説明することができる
	11		・世界には様々な地形が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する ・世界には様々な気候が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する	・世界の様々な地形について、その成因を理解し、地形と人々の生活との関りについて考察する ・地震や火山災害を通して防災について考える ・世界の気候について、その成因を理解し、気候と人々の生活との関りについて考察する ・様々な気象災害を通して防災について考える ・気候と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	地形の成因を説明することができる 地形と生活文化との関りについて説明することができる 気候の成因を説明することができる 気候と生活文化との関りについて説明することができる
三 学 期	12				
	1	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と 国際協力	さまざまな地球的課題について多様な視点から考察し、持続可能な社会をつくるために必要とされる国際協力のあり方について自らの考えをもつ	・相互に関連する地球的課題とその解決に向けた動きについて知る ・地球環境問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・資源・エネルギー問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・人口問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・食料問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・都市・居住問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する	さまざまな地球的課題の相互の関連について説明できる 地球的課題の解決に向けた国際協力のあり方について、自分自身の考えを述べることができる
	2				
	3				
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・「地理探究」とのつながりを考慮して授業を行います。2年次あるいは3年次に「地理探究」を選択しようと考えている人は、1年次に履修する「地理総合」で地理的な見方や考え方の基礎をしっかりと身につけておく必要があります。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地理総合	2	1年2類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 新地理総合(帝国書院) 詳解現代地図 最新版(二宮書店)		高等学校 新地理総合ノート

科目の到達目標 ・様々な地図や統計から情報を読み取ることができるようにする。 ・世界の生活文化の多様性や地域的・地球的課題について理解を深める。 (知識及び技能) ・地理に関わる事象の意味や意義、特色、相互の関連を多面的・多角的に考察することができるようにする ・国家や地域の歴史的、空間的つながりを考慮しながら、地域的・地球的課題の解決に向けて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。 ・大学受験を見据え、応用問題が解ける準備をする。 (思考力、判断力、表現力等) ・世界の多様な生活文化を尊重する態度、よりよい社会の実現をめざして主体的に課題の解決に取り組む態度を身につける。 (学びに向かう力、人間性等)
--

評価の観点と方法について 年3回の定期考査の点数を基準とし、ノートや課題の内容、提出状況等をもとに総合的に評価する。 ※中間考査は実施しません。

	月	学習单元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	様々な地図の役割を理解し、適切な情報を読み取る技能を身につける	・地球上の位置と時差、地図の役割と種類について、図をみながら理解する ・統計地図や GIS、ハザードマップについて知る。	様々な地図の役割を説明できる 統計地図から必要な情報を読み取ることができる
	5	第2章 結び付きを深める 現代世界	国家の役割、国家間の様々な結びつきを理解し、グローバル化する現代世界への認識を深める	・国家と領域について、基礎的な知識を得る ・様々な分野で結び付く世界を地図や統計から読み取る	国家間の結び付きの特徴を位置や分布に注目して説明することができる
	6	第2部 国際理解と国際協力	世界には様々な地形が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する	・世界の様々な地形について、その成因を理解し、地形と人々の生活との関りについて考察する	地形の成因を説明することができる 地形と生活文化との関りについて説明することができる
		第1章 生活文化の多様性と国際理解		・地震や火山災害を通して防災について考える	
	7	第2部 国際理解と国際協力	世界には様々な気候が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する	・世界の気候について、その成因を理解し、気候と人々の生活との関りについて考察する	気候の成因を説明することができる 気候と生活文化との関りについて説明することができる
		第1章 生活文化の多様性と国際理解			

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9			・様々な気象災害を通して防災について考える ・気候と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	
	10		言語や宗教について、基礎的な知識を身につけるのみならず、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する また、多様な文化を尊重する態度を身につける 現在の多様な生活文化が、歴史的背景も成因となっていることを理解する	・世界の様々な言語・宗教について理解を深めるとともに、言語・宗教と人々の生活との関りについて考察する ・言語・宗教と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する ・歴史的背景と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	言語・宗教について、その特徴や分布に着目して説明することができる 言語・宗教と生活文化との関りについて説明することができる
	11		自然環境と産業、産業の発達と人々の生活文化についてそのつながりを理解する	・世界の産業と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	現在の生活文化がどのような歴史的背景により形成されたか説明できる 自然環境と産業、産業の発達と生活文化との関りについて説明することができる
	12	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と 国際協力	さまざまな地球的課題について多様な視点から考察し、持続可能な社会をつくるために必要とされる国際協力のあり方について自らの考えをもつ	・相互に関連する地球的課題とその解決に向けた動きについて知る ・環境・資源・エネルギー・人口・都市等の問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する	地球的課題の解決に向けた国際協力のあり方について、自分自身の考えを述べることができる
三 学 期	1	第3部 持続可能な地域作りと私たち 第1章 自然環境と防災		・実際に起こったさまざまな自然災害とそれに対する取り組み、今後の防災への準備等について、具体例をもとに考える。	さまざまな自然災害を、すぐにでも起こりうる身近な問題としてとらえ、私たちにできることを考える。
	2				
	3				

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

・「地理探究」とのつながりを考慮して授業を行います。2年次あるいは3年次に「地理探究」を選択しようと考えている人は、1年次に履修する「地理総合」で地理的な見方や考え方の基礎をしっかりと身につけておく必要があります。

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地理総合	2	1年3類	必修
授業担当者	教科書名		副教材等
*****	高等学校 新地理総合(帝国書院) 詳解現代地図 最新版(二宮書店)		高等学校 新地理総合ノート

科目の到達目標 ・様々な地図や統計から情報を読み取ることができる。 ・世界の生活文化の多様性や地域的・地球的課題について理解を深める。 (知識及び技能)	
・地理に関わる事象の意味や意義、特色、相互の関連を多面的・多角的に考察することができる。 ・国家や地域の歴史的、空間的つながりを考慮しながら、地域的・地球的課題の解決に向けて構想する力や、構想したことを説明したり、議論したりする力を養う。 (思考力、判断力、表現力等)	
・世界の多様な生活文化を尊重する態度、よりよい社会の実現をめざして主体的に課題の解決に取り組む態度を身につける。 (学びに向かう力、人間性等)	

評価の観点と方法について 年3回の定期考査の点数を基準とし、ノートやワークシート、課題の内容、提出状況、自己評価の内容をもとに総合的に評価する。 ※中間考査は実施しません。	
---	--

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	中学時の復習	これからの地理学習の基盤を確認する	・基本的な世界の地形、国名について復習をする	様々な地図の役割を説明できる 統計地図から必要な情報を読み取ることができる
	5	第1部 地図でとらえる現代世界 第1章 地図と地理情報システム	様々な地図の役割を理解し、適切な情報を読み取る技能を身につける	・地球上の位置と時差、地図の役割と種類について、図をみながら理解する ・統計地図や GIS については情報端末を活用する ・ハザードマップを通して防災について考える	
	6	第2章 結び付きを深める 現代世界	国家の役割、国家間の様々な結びつきを理解し、グローバル化する現代世界への認識を深める	・国家と領域について、基礎的な知識を得る ・様々な分野で結びつく世界を地図や統計から読み取る	国家間の結び付きの特徴を位置や分布に注目して説明することができる
	7	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と国際理解	世界には様々な地形が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する	・世界の様々な地形について、その成因を理解し、地形と人々の生活との関りについて考察する ・地震や火山災害を通して防災について考える	地形の成因を説明することができる 地形と生活文化との関りについて説明することができる

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第2部 国際理解と国際協力 第1章 生活文化の多様性と 国際理解	世界には様々な気候が存在し、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する	・世界の気候について、その成因を理解し、気候と人々の生活との関りについて考察する ・様々な気象災害を通して防災について考える ・気候と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	気候の成因を説明することができる 気候と生活文化との関りについて説明することができる
	10		言語や宗教について、基礎的な知識を身につけるのみならず、そこに住む人々の多様な生活文化に影響を与えていることを理解する また、多様な文化を尊重する態度を身につける	・世界の様々な言語・宗教について理解を深めるとともに、言語・宗教と人々の生活との関りについて考察する ・言語・宗教と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	言語・宗教について、その特徴や分布に着目して説明することができる 言語・宗教と生活文化との関りについて説明することができる
	11		現在の多様な生活文化が、歴史的背景も成因となっていることを理解する	・歴史的背景と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	現在の生活文化がどのような歴史的背景により形成されたか説明できる
	12		自然環境と産業、産業の発達と人々の生活文化についてそのつながりを理解する	・世界の産業と人々の生活について、地域を一つ取り上げ、追究事例として深く考察する	自然環境と産業、産業の発達と生活文化との関りについて説明することができる
三 学 期	1	第2部 国際理解と国際協力 第2章 地球的課題と 国際協力	さまざまな地球的課題について多様な視点から考察し、持続可能な社会をつくるために必要とされる国際協力のあり方について自らの考えをもつ	・相互に関連する地球的課題とその解決に向けた動きについて知る ・地球環境問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・資源・エネルギー問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・人口問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・食料問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する ・都市・居住問題の解決に向けて、国際協力のあり方を考察する	さまざまな地球的課題の相互の関連について説明できる 地球的課題の解決に向けた国際協力のあり方について、自分自身の考えを述べることができる
	2				
	3				
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・「地理探究」とのつながりを考慮して授業を行います。2年次あるいは3年次に「地理探究」を選択しようと考えている人は、1年次に履修する「地理総合」で地理的な見方や考え方の基礎をしっかりと身につけておく必要があります。					

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択	
歴史総合		2	1 年全類		必修	
授業担当者			教科書名	副教材等		
*****			新歴史総合 (第一学習社)	プリント等		
科目の到達目標						
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することをめざす。						
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。		近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。		近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。		
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法		評価のポイント
学期	4	近代化と私たち ・18 世紀のアジアの 繁栄	・18 世紀のアジアの経済と社会を理解させる。	・18 世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に説明する。		授業中の関心・意欲・態度
	5	・工業化の進展と国民国家の建設	・産業革命と世界市場の形成について理解させる。	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を説明する。		ノート提出 中間考査
	6	・結びつく世界と日本の開国	・市民革命や日本の明治維新など立憲体制・国家形成について理解させる。	・18 世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。		
	7	・帝国主義とアジア諸国の変容	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	・列強の進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を説明する。		ノート提出 期末考査 夏季課題の説明

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	国際秩序の変化や大衆化と私たち ・ 第一次世界大戦と大衆社会	・ 国際関係の緊密化、アメリカ合衆国とソヴィエト連邦の台頭など国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について理解させる。	・ 植民地の独立、大衆の政治的・経済的・社会的地位の変化、生活様式の変化などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けられるよう工夫する。	授業中の関心・意欲・態度
	10	・ 経済危機と第二次世界大戦	・ 世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解させる。	・ 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを説明・解説する。	ノート提出 中間考査
	11	・ 第二次世界大戦後の世界と日本	・ 第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解させる。	・ 第二次世界大戦の推移とこの大戦が戦後の世界に与えた影響、大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢について解説する。	
	12				ノート提出 期末考査
三 学 期	1	グローバル化と私たち ・ 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・ 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解させる。	・ 西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などについて説明する。	授業中の関心・意欲・態度
	2	・ 世界秩序の変容と日本	・ 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などをなどについて理解させる。	・ 地域紛争と冷戦の関係、冷戦が各国経済に及ぼした影響、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に説明・解説する。	ノート提出 学年末考査
	3				
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・ 大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等の配慮をします。 ・ 歴史は暗記が欠かせない科目ですが、語句の暗記のみにとどめるのではなく、歴史の流れに関連づけて理解するよう工夫します。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択		
地理探究	2	2年1類	選択		
授業担当者	教科書名		副教材等		
*****	新詳 地理探究（帝国書院） 詳解現代地図 最新版（二宮書店）		プリント等		
科目の到達目標					
・現代社会の諸事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を を培い、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての自覚と資質を養う。					
知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度		
地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深める。		地理的事象の意味や意義・特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。	知識及び技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けようという姿勢や、よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本においてみられる課題を主体的に追究、解決しようとする姿勢を見せ、地理的な課題への多面的・多角的な考察、理解を深める。		
評価の観点と方法について					
定期考査の点数を基準とし、ノートや課題等の提出状況を加味し、総合的に評価する。 ※中間考査は実施しません。					
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
学期	4	第 1 部 現代世界の系統地理的考察 第 1 章 自然環境	・地球内外の力がつくる様々な地表のかたちを知り、その成り立ちを理解する	・地球システムのなかで生きる私たち ・地形の成因と地球表面の起伏 ・地球規模の大地形 ・河川流域と海岸にみられる小地形	授業中の関心・意欲・態度
	5		・気候のしくみを知り、気候の地域性と生業・文化との関わりについて理解する	・気候の成り立ち ・気候と生態系 ・世界の気候区分 ・さまざまな気候帯 ・気候変動と異常気象	ノート提出
	6		・日本の自然環境について理解する	・日本の地形 ・日本の気候 ・開発に伴う災害と防災・減災の取り組み	
	7		・様々な環境問題の原因を知り、その解決策について考える	・地球環境問題とは ・さまざまな地球環境問題 ・地球環境問題の解決に向けた取り組み	ノート提出 期末考査 夏季課題の説明

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第2章 資源と産業	・世界の農林水産業について地域の特性を知り、気候や文化との関わりについて理解する	・農業の発達と分布, 農業の地域区分 ・現代世界の農業の現状と課題 ・日本の農業の現状と課題 ・世界と日本の林業, 世界と日本の水産業 ・世界の食糧問題, 日本の食糧問題	夏季課題提出 授業中の関心・意欲・態度
	10		・資源やエネルギーの分布や活用について知るとともに、資源やエネルギーをめぐる課題について考える	・エネルギー資源の種類と利用 ・化石燃料の分布と利用 ・電力の利用 ・鉱山資源の種類と利用 ・資源・エネルギーをめぐる課題 ・日本の資源・エネルギー問題	ノート提出
	11		・世界の工業の成り立ちや立地について知り、グローバル化する工業生産について理解を深める	・工業の発達と種類 ・工業の立地 ・世界の工業地域 ・現代世界の工業の現状と課題 ・工業の知識産業化とスタートアップ企業 ・日本の工業 ・経済発展と第3次産業 ・商業の現状と変化 ・商業以外のさまざまな第3次産業	ノート提出 期末考査
	12				
三 学 期	1	第3章 交通・通信と観光, 貿易	・交通や情報通信の発達について学び、貿易や商業環境の変化について理解する	・世界を結ぶ交通, 日本の交通の特徴, 情報通信の発達, 余暇の拡大と観光産業, 日本の観光とその変化, 世界の貿易と地域間格差, 貿易の自由化と経済連携, 日本の貿易	授業中の関心・意欲・態度
	2		・世界の人口分布について知り、人口問題を考える	・世界の人口, 人口の移動, 世界の人口問題, 日本の人口問題	
	3		・村落と都市の成り立ちについて知り、居住問題や日本の村落・都市の課題について考える	・集落の成り立ち, 村落の形態と機能, 都市の成立と形態・機能, 都市圏の拡大と都市の構造, 発展途上国の都市・居住問題, 先進国の都市・居住問題, 日本の都市・居住問題	ノート提出 学年末考査
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・3年次でも地理探究を履修する。3年次は各地域の地誌を学習した後、入試過去問等の実践問題にも取り組む予定である。 ・受験に必要であれば2年次から自主的に基礎的な知識・実践問題に取り組むようにしてもらいたい。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
日本史探究	2	2年1類AC型・3類	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		高校日本史 (山川出版社)	その他授業プリント

科目の到達目標
① 日本史の基本的事項（原始・古代～中世）を広く学ぶ。 ② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、資料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する。 ③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多角的に学ぶことで歴史への関心を高める。 ④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける。

評価の観点と方法について
年3回の定期考査の点数を基本として、授業プリントや長期休暇課題等の提出状況、授業に取り組む姿勢等を考慮した平常点を加味し、総合的に評価する。

		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの	発掘資料、文献に基づき、研究された歴史であることを認識する	日本文化の始まり 農耕の開始	授業中の興味・関心・態度
	5	第2章 古墳とヤマト政権	『古事記』『日本書紀』等を参考に大和政権について理解する	古墳文化の展開 飛鳥の朝廷	
	6	第3章 律令国家の形成	律令体制の成立経緯、意義を理解する	律令国家への道 平城京の時代 律令国家の文化 律令国家の変容	
	7	第4章 貴族政治の展開	藤原氏を中心にして、平安時代の政治・文化を理解する	摂関政治 国風文化 荘園の発達と武士団の成長	ノート提出 期末考査

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	中世 第5章 院政と武士の進出	武士が登場し、勢力を拡大していく経緯、意義を理解する	院政の始まり 院政と平氏政権	授業中の興味・関心・ 態度
	10	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の政治等から日本の中世を理解する	鎌倉幕府の成立と展開 モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	
		第7章 武家社会の成長	建武の新政から、足利義満の統治期までの経緯を理解する 民衆の自治と、戦乱の時代を理解する	室町幕府の成立 下剋上の社会 室町文化 戦国の動乱	
	11				
	12				ノート提出 期末考査
三 学 期	1	近世 第8章 近世の幕開け	織田信長、豊臣秀吉の登場による時代の変化を理解する	天下人の登場 豊臣政権と桃山文化	授業中の興味・関心・ 態度
	2				
	3				ノート提出 学年末考査

その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など）

- ・近世・近代（初期）の学習は3年次に行います。
- ・大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等配慮します。（必要に応じてプリント教材も使用）
- ・日本史は暗記が欠かせない科目ですが、語句の暗記のみにとどめるのではなく、歴史の流れに関連づけて理解するようにしましょう。

科目名		単位数	指導学年・類・型	必修・選択	
日本史探究		3	2年Ⅱ類文系	必修	
授業担当者	教科書名		副教材等		
*****	日本史探究『高校日本史』 (山川出版社)		『高校日本史ノート』(山川出版社) 『詳説日本史図録』(山川出版社) 『日本史一問一答』(山川出版社)		
科目の到達目標					
社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。					
評価の観点と方法について					
① 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。 ② 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ③ 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。					
	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第Ⅰ部 原始・古代 第Ⅰ章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり 2 農耕の開始 第Ⅱ章 古墳とヤマト政権 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	発掘資料、文献に基づき、研究された歴史であることを認識する	旧石器文化・縄文文化の成立と変化、社会、特色 水稲耕作や金属器の伝来が日本列島の社会に与えた影響 「クニ」の形成から邪馬台国などの小国の連合について 弥生文化の特色 中国大陸・朝鮮半島との関係 ヤマト政権の発展や古墳文化 推古朝の政治や飛鳥文化の特色	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表 レポート提出
	5	第Ⅲ章 律令国家の形成 1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	律令体制成立の経緯、意義、大陸、半島との関係を理解する	大化の改新以降の政治過程 律令体制の成立 平城京における政治史の流れ 律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色 国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生	
	6	第Ⅳ章 貴族政治の展開 1 摂関政治 2 国風文化 3 荘園の発達と武士団の成長	藤原氏を中心にして、平安時代の政治・文化を理解する 武士が登場し、勢力を拡大していく経緯、意義を理解する	摂関政治の特質とその後の展開 中国文化をふまえて国風文化が形成されたこと 浄土信仰が広まった背景 武士団の仕組みや武士の成長	
	7	第Ⅴ章 院政と武士の進出 1 院政の始まり 2 院政と平氏政権	院政・平氏・鎌倉幕府の政治等から日本の中世を理解する	土地制度の変化 院政期における武士の影響力の拡大や平氏政権の展開、文化が庶民や地方に広まったこと 武家政権の成立	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
二 学 期	9	第6章 武家政権の成立 1 鎌倉幕府の成立と展開 2 モンゴル襲来と幕府の衰退	院政・平氏・鎌倉幕府の政治等から日本の中世を理解する	鎌倉幕府と朝廷による二元的支配の構造、執権政治の特質、御家人の特質やその地域支配について モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響 鎌倉時代の宗教や文化の特徴	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表 レポート提出	
	10	3 鎌倉文化		鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球やアイヌの文化の形成		
		第7章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 下剋上の社会 3 室町文化	建武の新政から、足利義満の統治期までの経緯を理解する 民衆の自治と、戦乱の時代を理解する	南北朝の動乱と日本列島の地域社会の変質や、東アジアの国際情勢の変化とその影響 室町文化の特徴		
	11	4 戦国の動乱				
		第8章 近世の幕開け 1 天下人の登場 2 豊臣政権と桃山文化	織田信長、豊臣秀吉の登場による時代の変化を理解する 江戸幕府が成立する経緯と、徳川家康、秀忠、家光の権力掌握の経緯を理解する	織豊政権の特色や貿易・対外関係 織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響 安土桃山時代の文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化のなかにとけ込んでいったこと 豊臣政権による朝鮮出兵から、対アジア認識を含め一連の政策のもたらした影響		
三 学 期	1	第9章 幕藩体制の成立と展開 1 江戸幕府の成立 2 江戸初期の外交と文化 3 幕政の安定 4 経済の発展 5 元禄文化	江戸幕府の支配が確固たるものになる経緯を理解する 江戸時代中期における政治・経済・文化を理解する	江戸時代の社会の構造 桃山文化を受け継ぎながらも新しい武家社会の到来を示す寛永期の文化が成立したこと 江戸幕府の鎖国政策 文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治に至る推移について 都市の発達と文化の担い手との関係 17世紀の文化の特徴	定期考査 提出課題 発問評価 授業態度 発表 レポート提出	
	2	第10章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革と宝暦・天明期の文化	江戸幕府の支配が揺らいでいく経緯を理解する	産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化		
	3	2 江戸幕府の衰退 3 化政文化	江戸時代後期の政治・経済・文化について理解する	幕藩体制の変容や宝暦・天明期の文化の特色		
その他(履修上の留意点・大学進学等のための学習など) ・3年生でも引き続き「日本史探究」の選択履修をすることができる。 ・大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等の配慮をする。(3年次には問題演習等も行う) ・日本史は暗記が欠かせない科目だが、語句の暗記のみにとどめるのではなく、歴史の流れに関連づけて理解するよう努める。						

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
世界史探究	2	2年1類(A・Cコース)・3類	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		世界史探究 (東京書籍)	最新世界史図説タペストリー (帝国書院)

科目の到達目標

- ・世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき地理的条件や日本史等と関連付けながら理解する。
- ・世界史の学習を通して文化の多様性・複合性について理解を深め、現代世界を広い視野から考察する態度を身につける。

評価の観点と方法について

期末考査の点数を基準として、授業ノートやプリント、長期休暇課題等の提出状況を考慮し、三観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体性）から評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	序章 世界史へのまなざし		・地球と人類の誕生	
	5	第1編 諸地域の歴史的特質 第1章 古代文明の出現	文明がどのように誕生したのか、人類の進化や道具の発達などから考察する	・農業と気候 ・古代オリエントとエーゲ海地域 ・南アジアの古代文明 ・東アジアにめばえた文明	
	6	第2章 西アジアと地中海周辺	西アジア、地中海世界においてそれぞれの自然環境に適応した独自の地域世界が形成される過程と、その特色について学習する	・古代オリエントの統一 ・古代ギリシアとヘレニズム世界 ・ローマ帝国と地中海世界 ・古代末期の社会と地中海世界の解体 ・地中海世界とアジア ・イスラーム世界の成立 ・中世初期の東西ヨーロッパ	
	7				ノート提出 期末考査

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第3章 南アジア	南アジアの気候・地形・風土から、その国家形成に至る過程について学習する	・南アジアにおける国家形成 ・インド世界の形成	夏期課題提出
	10				
	11	第4章 東南アジア	東南アジア地域の気候・地形から、この地域の発達について学習する	・海の道の形成と東南アジア ・東南アジア諸国家の再編成	
	12				ノート提出 期末考査
三 学 期	1	第5章 東アジアと中央ユーラシア	隋唐を中心とした中国での帝国形成過程と遊牧民の文化形成および周辺国家との関係について学習する	・古代帝国の誕生 ・中国の分裂と多様化 ・隋唐帝国と東アジア ・草原地帯のトルコ化とイスラーム化	
	2				
	3				ノート提出 期末考査
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・近代・現代の学習は3年次の選択で履修。 ・共通テスト等の受験については、個別に対応する。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
公共	2	2年・全類	必修
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新公共 (第一学習社)	随時プリント等を用意

科目の到達目標

- ① 考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。民主政治や日本国憲法、日本の政治機構について理解を深め、主権者・良識ある公民としての必要な能力・知識・理解を養い育てる。

評価の観点と方法について

各単元目標が理解できているかどうかを中心に年間3回の定期考査を実施し、必要に応じて課題を出して提出させる。評価については、定期考査に加えて、三観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体性）から総合的に評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1編 公共の扉 第1章 公共的な空間をつくる私たち	自らのあり方・生き方について主体的に考えさせる。その導入として、できるだけ生徒の身近なところから題材を見つける。	・社会に生きる私たち ・個人の尊厳と自主・自律 ・多様性と共通性 ・伝統文化とのかかわり ・自立した主体をめざして	授業中の関心・意欲・態度
	5	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方		・人間と社会のあり方についての見方・考え方	
	6	第3章 公共的な空間における基本的原理		・人間の尊厳と平等、個人の尊重 ・民主主義と法の支配 ・自由・権利と責任・義務 ・日本国憲法に生きる基本的原理	
	7				レポート提出 ノート提出 期末考査
二学期	9	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	民主政治の原理について、歴史的経緯も合わせて学習する。	・私たちと法 ・法と基本的人権 ・自由に生きる権利と法・規範 ・平等に生きる権利と法・規範	授業中の関心・意欲・態度

二 学 期	10	第1章 法的な主体となる私たち ○法や規範の意義と役割 ○契約と消費者の権利・責任	日本国憲法の成立過程とその性格・特徴を理解させる。 法や契約の意義について学習する。	・安全で豊かに生きる権利と法・規範 ・法をよりよいものにするための権利 ・さまざまな契約と法 ・消費者の権利と責任	レポート提出 ノート提出 期末考査
	11				
	12	○司法参加の意義	司法参加の意義について理解させる。	・裁判所と司法 ・国民の司法参加	
三 学 期	1	第2章 政治的な主体となる私たち ○政治参加と公正な世論形成	政治のしくみを理解させるとともに主権者、有権者としての意識を形成する。	・私たちと選挙 ・選挙の現状と課題 ・世論の形成と政治参加 ・国会と立法 ・内閣と行政 ・地方自治と住民福祉	授業中の関心・意欲・態度
	2	○国際社会と国家主権	国際政治についての理解を深め、複雑化する国際社会の中での日本の役割と課題を考える。	・国家と国際法 ・国境と領土問題 ・国際連合の役割と課題 ・今日の国際社会 ・人種・民族問題と地域紛争 ・国際社会における日本の役割	
	3	○日本の安全保障と防衛	日本の外交・防衛問題の現状を理解し、その課題について考える。	・平和主義と安全保障 ・日本の安全保障体制の変容 ・核兵器の廃絶と国際平和	

その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など）

- ・期末考査のみの実施である。
- ・大学入試共通テスト等の受験については個別に対応する。

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択
地理探究		4	3年1類A型		選択
授業担当者		教科書名		副教材等	
*****		新詳 地理探究（帝国書院） 詳解現代地図 最新版（二宮書店）		プリント等	
科目の到達目標					
・現代社会の諸事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を を培い、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な社会の形成者に必要な公民としての自覚と資質を養う。					
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深める。		地理的事象の意味や意義・特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。		知識及び技能を獲得し、思考力、判断力、表現力等を身に付けようという姿勢や、よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本においてみられる課題を主体的に追究、解決しようとする姿勢を見せ、地理的な課題への多面的・多角的な考察、理解を深める。	
評価の観点と方法について					
定期考査の点数を基準とし、ノートや課題等の提出状況を加味し、総合的に評価する。					
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
学期	4	第 1 部 現代世界の系統地理的考察 第2章 資源と産業	・資源やエネルギーの分布や活用について知るとともに、資源やエネルギーをめぐる課題について考える	・電力の利用、鉱山資源の種類と利用，資源・エネルギーをめぐる課題，日本の資源・エネルギー問題	授業中の関心・意欲・態度
	5		・世界の工業の成り立ちや立地について知り、グローバル化する工業生産について理解を深める	・工業の発達と種類，工業の立地，世界の工業地域，現代世界の工業の現状と課題，工業の知識産業化とスタートアップ企業，日本の工業 ・経済発展と第3次産業，商業の現状と変化，商業以外のさまざまな第3次産業	
	6	第3章 交通・通信と観光，貿易	・交通や情報通信の発達について学び、貿易や商業環境の変化について理解する	・世界を結ぶ交通，日本の交通の特徴，情報通信の発達，余暇の拡大と観光産業，日本の観光とその変化，世界の貿易と地域間格差，貿易の自由化と経済連携，日本の貿易	ノート提出 中間考査
	7	第4章 人口，村落・都市	・世界の人口分布について知り、人口問題を考える	・世界の人口，人口の移動，世界の人口問題，日本の人口問題	
ノート提出 期末考査 夏季課題の説明					

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9		・村落と都市の成り立ちについて知り、居住問題や日本の村落・都市の課題について考える	・集落の成り立ち、村落の形態と機能、都市の成立と形態・機能、都市圏の拡大と都市の構造、発展途上国の都市・居住問題、先進国の都市・居住問題、日本の都市・居住問題	夏季課題提出 授業中の関心・意欲・態度
	10	第5章 生活文化、 民族・宗教	・世界の衣・食・住の特徴を知るとともに、民族や領土をめぐる争いについて理解する	・世界の衣服と食生活、世界の住居と衣食住の画一化、世界の民族・言語、世界の宗教、さまざまな民族問題、多文化の共生に向けた取り組み ・現代世界と国家、領土問題と解決への取り組み、日本の領域と領土をめぐる問題	ノート提出 中間考査
	11	第2部 現代社会 の地誌的考察 第1章 現代社会の地域 区分	・世界の各地の地誌を、最近の状況と国際関係を重視して理解する。	・地域区分の意義と指標 ・中国の政治体制と多様な民族、中国の食生活と農業・水産業、中国の工業化と海外進出、経済発展に伴うさまざまな課題 ・韓国の歴史と生活文化、産業の発展と生活の文化	
	12	第2章 現代世界の 諸地域		・ASEAN 諸国の農業とその変化、ASEAN 諸国の工業とその発展 ASEAN の変化と課題	ノート提出 期末考査
三 学 期	1	第2章 現代世界の 諸地域		・急速な経済成長を支えた産業の発展、増加する人口と農村の変化、インド社会の変化と経済格差の拡大 ・イスラームと人々の生活文化、交易の歴史と乾燥地域の農業、豊富な資源を生かして進められる開発	授業中の関心・意欲・態度 ノート提出 学年末考査
	2				
	3				
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・大学入試共通テストの受験等については個別に対応する。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地理探究	3	3年 1類B型	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新詳地理探究（帝国書院） 詳解現代地図（二宮書店）	地理探究演習ノート（帝国書院）

科目の到達目標
早めに教科書内容の学習を終え、その後は実践問題演習を中心に既習範囲の復習を行い、大学入学共通テスト対策を行う。
特に地形図の読図、統計・資料の読み取りに慣れさせる。

評価の観点と方法について
年間5回の考査（1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末）の点数を基準とする。
また、ノートや夏季課題の提出等も評価の対象とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
期	4	第Ⅲ編 現代社会の 地誌的考察	世界の各地の地誌を、 最近の状況と国際関 係を重視して理解す る。	東アジア	ノートの提出 中間考査
				東南アジア	
	5			南アジア・西・中央アジア	
				アフリカ・ヨーロッパ・ロシア	
				アングロアメリカ	
	6			ラテンアメリカ・オセアニア	
				世界の人口分布と人口増加	
		第3章 人口と村落・都市		世界と日本の人口問題	ノートの提出 期末考査
				村落の成り立ちと機能	
				都市の発達と形態	
	7			都市の拡大と都市圏	
				世界と日本の都市・居住問題	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第4章 生活文化と 民族・宗教		世界の衣・食・住 世界の言語と宗教 国家の形成と領域 民族問題と領土問題 国家間の結びつきと国際連合の役割	夏季課題の提出
	10	入試対策演習	入試過去問題等の演習と既習内容の復習	入試過去問題等の演習やプリント等により、既習内容の復習と大学入学共通テスト対策を行う。	ノートの提出 中間考査
	11				
	12				期末考査
三 学 期	1	入試対策演習	入試過去問題等の演習と既習内容の復習	入試過去問題等の演習やプリント等により、既習内容の復習と大学入学共通テスト対策を行う。	期末考査
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 入試対策として、過去問・模試などのプリント教材等を補助教材として使用する。 必要に応じて、時事的内容も紹介する。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
地理探究	4	3年 2類 理型	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		新詳地理探究（帝国書院） 詳解現代地図（二宮書店）	地理統計要覧(二宮書店)、地理探究演習ノート（帝国書院）資料地理の研究（帝国書院）

科目の到達目標
早めに教科書内容の学習を終え、その後は実践問題演習を中心に既習範囲の復習を行い、大学入学共通テスト対策を行う。
特に地形図の読図、統計・資料の読み取りに慣れさせる。

評価の観点と方法について
年間4回の考査（1学期中間・期末、2学期中間・期末）の点数を基準とする。
また、ノートや夏季課題の提出等も評価の対象とする。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
期	4	第Ⅲ編 現代社会の 地誌的考察	世界の各地の地誌を、最近の状況と国際関係を重視して理解する。	東アジア	ノートの提出 中間考査
				東南アジア	
	5			南アジア・西・中央アジア	
				アフリカ・ヨーロッパ・ロシア	
				アングロアメリカ	
	6			ラテンアメリカ・オセアニア	
				世界の人口分布と人口増加	ノートの提出 期末考査
		第3章 人口と村落・都市		世界と日本の人口問題	
				村落の成り立ちと機能	
				都市の発達と形態	
	7			都市の拡大と都市圏	
				世界と日本の都市・居住問題	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第4章 生活文化と 民族・宗教	入試過去問題等の演 習と既習内容の 復習	世界の衣・食・住 世界の言語と宗教 国家の形成と領域 民族問題と領土問題 国家間の結びつきと国際連合の役割 入試過去問題等の演習やプリント等により、 既習内容の復習とセンター入試対策を行う。	夏季課題の提出
	10	大学入学共通テ スト対策			ノートの提出 中間考査
	11				
	12				ノートの提出 期末考査
三 学 期	1				
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） 入試対策として、過去問・模試などのプリント教材等を補助教材として使用する。 必要に応じて、時事的内容も紹介する。					

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択
日本史探究		4	3年1類A・C型		選択
授業担当者			教科書名	副教材等	
*****			高校日本史 (山川出版社)	高校日本史ノート、プリント等	
科目の到達目標					
① 2年次に学習したことを引き継ぎ、日本史の基本的事項（近世～近代・現代）を広く学ぶ。 ② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、資料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する。 ③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多角的に学ぶことで歴史への関心を高める。 ④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける。					
評価の観点と方法について					
年5回の定期考査の点数を基本として、授業ノートやプリント、長期休暇課題等の提出状況、授業に取り組む姿勢等を考慮した平常点を加味し、総合的に評価する。					
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第7章 武家社会の成長	建武の新政から、足利義満の統治期までの経緯を理解する 民衆の自治と、戦乱の時代を理解する	室町幕府の成立 下剋上の社会、戦国の動乱 室町文化	授業中の関心・意欲・態度
	5	近世 第8章 近世の幕開け	織田信長、豊臣秀吉の登場による時代の変化を理解する	天下人の登場 豊臣政権と桃山文化	
		第9章 幕藩体制の成立と展開	幕府の外国、キリスト教に対する対応について、また、幕政の安定により戦国の気風を改める改革や経済発展にともなう文化の創造を学習する。	近世の外交 海禁政策 文治政治への転換 元禄文化	ノート提出 中間考査
	6	第10章 幕藩体制の動揺	江戸幕府の支配が揺らいでいく経緯を理解する 江戸時代後期の政治・経済・文化について理解する	幕政の改革 幕藩体制の動揺と外圧 幕藩体制の動揺と政治改革 新しい学問の形成と化政文化	
	7	近代・現代 第11章 近世から近代へ	ペリーの来航と日本開国の経緯また、幕末の攘夷運動と幕府や新政府の動きを理解する	ペリー来航と日本の開国 開国による社会の変化 幕府の動揺、滅亡	ノート提出 期末考査
		第12章 近代国家の成立	明治政府の発足による社会の変化と国際情勢、また、自由民権思想と、それに対する政府対応について理解する	近代国家をめざして 殖産興業と文明開化 明治初期の対外関係 新政府への反抗、憲法の制定 立憲国家の成立	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第13章 近代国家の展開と 国際関係	日清・日露戦争に至った経緯 とその影響について理解する 第一次世界大戦が諸外国と日 本に与えた影響を理解する	条約改正 朝鮮をめぐる対立 日清戦争と東アジアの変容 中国分割と日露戦争 日露戦争後の国際関係 大正政変 第一次世界大戦と日本 大衆社会の形成	授業中の関心・意 欲・態度
	10	第14章 近代産業と生活	民衆の生活の実態、明治期の 文化について理解する 大衆文化の実態を理解する	工業化と資本主義の発達 社会運動の発生 新しい文化の形成	ノート提出 中間考査
	11	第15章 恐慌と第二次世界 大戦	世界の経済状況 昭和初期の内政と外交 日中戦争開戦の経緯について 理解する 第二次世界大戦、アジア太平 洋戦争開戦の経緯、戦争の経 過と社会への影響について理 解する	第一次世界大戦後の国際情勢 第一次世界大戦の影響 世界恐慌 揺れ動く経済と中国侵略の本格化 日中戦争と国内体制の改変 第二次世界大戦前の国際情勢 軍部の台頭 第二次世界大戦 アジア太平洋戦争 戦時下での国民の生活 敗戦	ノート提出 期末考査
	12				
三 学 期	1	第16章 現代の世界と日本	戦後の国内・国際社会につい て理解する	戦後の国際秩序 日本の民主化 占領下の政治 冷戦と日本の独立	授業中の関心・意 欲・態度 ノート提出 学年末考査
	2				
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等の配慮をします。 ・日本史は暗記が欠かせない科目ですが、語句の暗記のみにとどめるのではなく、歴史の流れに関連づけ て理解するようにしましょう。					

科目名		単位数	指導学年・類・型	必修・選択	
日本史探究		3	3年1類B型	選択	
授業担当者	教科書名		副教材等		
*****	日本史探究『高校日本史』 (山川出版社)				
科目の到達目標					
① 原始・古代から近世まで、日本史の基礎知識を学ぶ ② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、資料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する ③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多角的に学ぶことで歴史への関心を高める ④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける。					
評価の観点と方法について					
定期考査の点数を基準として、授業ノートやプリント・レポート、長期休暇課題等の提出状況を考慮し、三観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体性）から評価する。					
	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第1章 日本文化のあけぼの	中国の文献・発掘史料などに基づき、研究された歴史であることを認識する	・文化の始まり ・農耕の開始	中間考査
		第2章 古墳とヤマト政権		・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷	
	5	第3章 律令国家の形成	律令体制成立の経緯、意義、大陸、半島との関係を理解する	・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容	
		第4章 貴族政治の展開	藤原氏を中心にして、平安時代の政治・文化を理解する	・摂関政治 ・国風文化 ・荘園の発達と武士団の成長	
	6	第5章 院政と武士の進出	武士が登場し、勢力を拡大していく経緯、意義を理解するとともに院政・平氏の政治等から日本の中世を理解する	・院政の始まり ・院政と平氏政権	期末考査 レポート提出 ノート提出
	7	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の成立、幕政を学習し武士社会への理解を深める	・鎌倉幕府の成立と展開 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第7章 武家社会の成長	建武の新政から、足利義満の統治期までの経緯を理解する	・室町幕府の成立 ・下剋上の社会 ・室町文化 ・戦国の動乱	中間調査
	10		民衆の一揆および自治と、戦乱の時代を理解する		
		第8章 近世の幕開け	織田信長、豊臣秀吉の登場による時代の変化を理解する	・天下人の登場 ・豊臣政権と桃山文化	
	11	第9章 幕藩体制の成立と展開	江戸幕府が成立する経緯と、徳川家康、秀忠、家光の権力掌握の経緯を理解する	・江戸幕府の成立 ・江戸初期の外交と文化 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化	
	12				期末調査 レポート提出 ノート提出
三 学 期	1	第10章 幕藩体制の動揺	江戸時代中期における政治・経済・文化を学習するとともに、幕府の衰退について理解を深める	・幕政の改革と宝暦・天明期の文化 ・江戸幕府の衰退 ・化政文化	期末調査 レポート提出 ノート提出
	2				
	3				
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等の配慮をする ・演習等については個別に対応する					

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択	
日本史探究		3	3年2類文型		必修	
授業担当者			教科書名	副教材等		
*****			高校日本史 (山川出版社)	山川 詳説日本史図録 山川 高校日本史ノート		
科目の到達目標						
① 2年次に学習したことを引き継ぎ、日本史の基本的事項（近代～現代）を広く学ぶ。 ② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、資料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する。 ③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多面的・多角的に学ぶ。 ④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける。						
評価の観点と方法について						
年4回の定期考査の点数を基本として、授業ノートやプリント、長期休暇課題等の提出状況、授業に取り組む姿勢等を考慮した平常点を加味し、総合的に評価する。						
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント	
一 学 期	4	近代国家の成立 ・ 開国と幕府の滅亡	開国の影響と幕府滅亡に至る経緯について、外国との関係とともに理解する	開国と幕府の動揺 尊皇攘夷運動と倒幕	ノート提出 中間考査	
	5	・ 明治維新	明治政府の発足による社会の変化と国際情勢について理解する	中央集権体制の確立 明治新政府の政策 自由民権運動と立憲体制の確立 条約改正		
		・ 立憲国家の成立 ・ 大陸政策の展開	日清戦争・日露戦争の経緯と戦後の影響について理解する	日清戦争 日露戦争 産業革命 社会運動		
	6	・ 近代産業の発展 ・ 近代の文化	産業の発展に伴う社会変化について理解する 明治時代の文化・学問・思想について理解する	近代産業の発展と社会問題 明治時代の学問・思想・文化		
		二つの世界大戦とアジア ・ 第一次世界大戦と日本	第一次世界大戦開戦の経緯とその影響について理解する	第一次世界大戦前の日本の政治 第一次世界大戦後の国際情勢 第一次世界大戦の影響 政党政治の展開 大正デモクラシー		
	7	・ 恐慌の時代	恐慌と内外政策の経緯について理解する	文化の大衆化 昭和初期の国内政治 昭和初期の外交政策		
		・ 軍部の台頭	軍部の台頭による満州事変・政党政治の崩壊について理解する	第二次政界大戦前の国際情勢 軍部の台頭		
		・ 第二次世界大戦	日中戦争とアジア太平洋戦争開戦の経緯、戦争の経過と社会への影響について理解する	日中戦争 アジア太平洋戦争		
						ノート提出
						期末考査

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	現代の世界と日本 ・ 占領下の改革と主権の回復 ・ 55 年体制と高度経済成長 ・ 現代の情勢	戦後の国内・国際社会について理解する 戦後の政治・世界情勢の流れを理解する(必要に応じてプリントを使用する)	戦後の国際情勢 日本の民主化 占領下の政治 戦後の経済再建 戦後の人々の暮らし 冷戦と日本の独立 55 年体制の成立 高度経済成長 大学入学共通テストを見据えた演習を行う	夏季課題提出
	10	・ 演習			ノート提出
	11	大学入学共通テスト対策			中間考査
	12				ノート提出
三 学 期		大学入学共通テスト直前対策			期末考査
その他(履修上の留意点・大学進学等のための学習など) ・ 大学受験にも対応できるよう、授業内容や進度を工夫する。(必要に応じてプリント教材なども使用) ・ 大学入学共通テスト対策の実践問題演習も行う。					

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択
日本史探究		4	3年3類		選択
授業担当者			教科書名	副教材等	
*****			高校日本史 (山川出版社)	プリント等	
科目の到達目標					
① 2年次に学習したことを引き継ぎ、日本史の基本的事項（近世～近代・現代）を広く学ぶ。 ② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、資料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する。 ③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多角的に学ぶことで歴史への関心を高める。 ④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける。					
評価の観点と方法について					
年5回の定期考査の点数を基本として、授業ノートやプリント、長期休暇課題等の提出状況、授業に取り組む姿勢等を考慮した平常点を加味し、総合的に評価する。					
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第6章 武家政権の成立	鎌倉幕府の政治等から日本の中世を理解する	モンゴル襲来と幕府の衰退 鎌倉文化	授業中の関心・意欲・態度
	5	第7章 武家社会の成長	建武の新政から、足利義満の統治期までの経緯を理解する 民衆の自治と、戦乱の時代を理解する	室町幕府の成立 下剋上の社会、戦国の動乱 室町文化	
		近世 第8章 近世の幕開け	織田信長、豊臣秀吉の登場による時代の変化を理解する	天下人の登場 豊臣政権と桃山文化	ノート提出 中間考査
	6	第9章 幕藩体制の成立と展開	幕府の外国、キリスト教に対する対応について、また、幕政の安定により戦国の気風を改める改革や経済発展にともなう文化の創造を学習する。	江戸幕府の成立 江戸初期の外交と文化 幕政の安定 経済の発展 元禄文化	
	7	第10章 幕藩体制の動揺	江戸幕府の支配が揺らいでいく経緯を理解する 江戸時代後期の政治・経済・文化について理解する	幕政の改革と宝暦天明期の文化 江戸幕府の衰退 化政文化	ノート提出 期末考査

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	9	近代・現代 第 11 章 近世から近代へ	ペリーの来航と日本開国の経緯また、幕末の攘夷運動と幕府や新政府の動きを理解する	開国とその影響 幕府の滅亡と新政府の発足	授業中の関心・意欲・態度 ノート提出 中間考査 ノート提出 期末考査
	10	第 12 章 近代国家の成立	明治政府の発足による社会の変化と国際情勢、また、自由民権思想と、それに対しての政府対応について理解する	明治維新 立憲国家の成立	
	11	第 13 章 近代国家の展開と国際関係	日清・日露戦争に至った経緯とその影響について理解する 第一次世界大戦が諸外国と日本に与えた影響を理解する	大陸政策の展開 第一次世界大戦と日本 ワシントン体制	
	12	第 14 章 近代産業と生活	民衆の生活の実態、明治期の文化について理解する 大衆文化の実態を理解する	近代産業の発展 近代の文化 市民生活の変容と大衆文化	
	12	第 15 章 恐慌と第二次世界大戦	世界の経済状況 昭和初期の内政と外交 日中戦争開戦の経緯について理解する 第二次世界大戦、アジア太平洋戦争開戦の経緯、戦争の経過と社会への影響について理解する	恐慌の時代 軍部の台頭 第二次世界大戦	
三 学 期	1	第 16 章 現代の世界と日本	戦後の国内・国際社会について理解する	戦後の国際秩序 日本の民主化 占領下の政治 冷戦と日本の独立	授業中の関心・意欲・態度 ノート提出 学年末考査
	2				
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・大学受験にも対応できるよう、授業内容や時間配分等の配慮をします。 ・日本史は暗記が欠かせない科目ですが、語句の暗記のみにとどめるのではなく、歴史の流れに関連づけて理解するようにしましょう。					

科目名	単位数	指導学年・類・型	必修・選択
世界史探究	4	3年1類(A・Cコース)・3類	選択
授業担当者		教科書名	副教材等
*****		世界史探究 (東京書籍)	最新世界史図説タペストリー (帝国書院)

科目の到達目標

- ① 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、諸資料に基づき地理的条件や日本史等と関連付けながら理解する
- ② 世界史の学習を通して文化の多様性・複合性について理解を深め、現代世界を広い視野から考察する態度を身につける

評価の観点と方法について

定期考査の点数を基準として、授業ノートやプリント・レポート、長期休暇課題等の提出状況を考慮し、三観点(知識・技能、思考・判断・表現、主体性)から評価する。

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一学期	4	第5章 東アジアと中央ユーラシア	隋唐を中心とした中国での帝国形成過程と遊牧民の文化形成および周辺国家との関係について学習する	・古代帝国の誕生 ・中国の分裂と多様化 ・隋唐帝国と東アジア ・草原地帯のトルコ化とイスラーム化	中間考査
	5	第9章 中華世界の変容とモンゴル帝国	漢民族と周辺民族との抗争、およびその興亡について学習する	・唐の崩壊後の東アジア ・宋代の新展開 ・モンゴル帝国 ・元の成立	
	6	第8章 中世ヨーロッパ	キリスト教権威とそれに基づいて成立した中世の社会、さらにはその崩壊と近代国家への“めばえ”についても学習する	・中世ヨーロッパ社会の展開 ・中世西ヨーロッパ社会の成熟 ・中世西ヨーロッパ社会の文化 ・ルネサンス	レポート提出 ノート提出 期末考査
	7	第11章 大交易時代と世界の一体化	“大航海時代”と言われる時代の背景、およびアジアへの到達がもたらした影響について学習する	・アジア交易圏の再編と活況 ・ポルトガルのアジア進出 ・明と日本・朝鮮の動向 ・一体化に向かう世界 ・大交易時代の世界	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第13章 主権国家体制の形成 と地球規模での交易 の拡大	ヨーロッパにおける宗教改革 と近代国家の形成過程、そして その影響について学習する	・主権国家群の形成と宗教改革 ・オランダの繁栄と英仏の国家 形成 ・商業覇権と植民地建設 ・啓蒙専制国家の発展 ・近世ヨーロッパの社会と文化	夏期課題提出
	10				中間考査
	11	第14章 国民国家と近代社会 の形成	産業革命がもたらした“時間距 離”の短縮、技術革新による世 界各地への侵略について学習 し、現在も各国の発展に影響を 与えていることも併せて確認 する	・産業革命と工業化 ・アメリカ合衆国とラテンアメリ カ諸国の独立 ・フランス革命とウィーン体制 ・自由主義の台頭と新しい革命の 波 ・19世紀後半のヨーロッパ諸国 ・南北アメリカの発展	
	12				レポート提出 ノート提出 期末考査
	1	第17章 第一次世界大戦の展 開と諸地域の変容	第一次世界大戦の経過と戦後 の国際連盟成立について学ぶ とともに、民族自決の考え方が もたらした影響について、東ア ジアを中心に学習する	・第一次世界大戦 ・ヴェルサイユ体制と国際秩序の 再編 ・アジアにおける民族独立運動	
	2				ノート提出 期末考査
三 学 期	3				
その他（履修上の留意点・大学等進学のための学習など） ・共通テスト等の受験対策については、個別に対応する					

科目名		単位数	指導学年・類・型		必修・選択
日本史演習		2	3年1類B型		選択
授業担当者			教科書名	副教材等	
*****			高校日本史 (山川出版社)		
科目の到達目標					
① 幕末から現代までの日本史の基礎知識学ぶ					
② 日本の歴史の大きな枠組みと展開を、史料に基づき地理的条件や世界史と関連づけながら理解する					
③ 教科書の暗記のみにとどまらず、各時代を多面的・多角的に学ぶ					
④ 日本史の学習を通して、文化の多様性・複合性と、現代世界の特質を広い視野から考察する態度を身につける					
評価の観点と方法について					
定期考查の点数を基準として、授業ノートやプリント・レポート、長期休暇課題等の提出状況を考慮し、三観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体性）から評価する					
		学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
一 学 期	4	第11章 近世から近代へ	開国の影響と幕府滅亡に至る経緯について、外国との関係とともに理解する	・開国とその影響 ・幕府の滅亡と新政府の発足	期末考查 ノート提出 レポート提出
	5	第12章 近代国家の成立	明治政府の発足による社会の変化と国際情勢について理解する	・明治維新 ・立憲国家の成立	
	6	第13章 近代国家の展開と国際関係	明治時代の文化・学問・思想について理解する		
	7		日清戦争・日露戦争の経緯と戦後の影響について理解する 第一次世界大戦開戦の経緯とその影響としての大正デモクラシーについても理解する	・大陸政策の展開 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制	

	月	学習単元・項目	学習のねらい	具体的な学習内容と方法	評価のポイント
二 学 期	9	第14章 近代の産業と生活	産業の発展に伴う社会変化について理解する	- 近代産業の発展 - 近代の文化 - 市民生活の変容と大衆文化	夏季課題提出
	10	第15章 恐慌と第二次世界大戦	恐慌と内外政策の経緯について理解する 軍部の台頭による満州事変と政党政治の崩壊について理解する	- 恐慌の時代 - 軍部の台頭 - 第二次世界大戦	
	11	第16章 現代の世界と日本	日中戦争とアジア太平洋戦争開戦の経緯、戦争の経過と社会への影響について理解する		
		大学入学共通テスト 対策の演習を行う	戦後の国内・国際社会や政治・世界情勢の流れを理解する (政治・経済と連携しながら)	- 占領下の改革と主権の回復 55年体制と高度経済成長 - 現代の情勢	
	12				期末考査 ノート提出 レポート提出
三 学 期		大学入学共通テスト 直前対策			
その他（履修上の留意点・大学進学等のための学習など） ・受験科目として対応できるよう、授業内容や進度を工夫し、実践問題演習などを効果的に取り入れる ・「戦後史」については、政治・経済と連携し工夫する。					